

日を煩わなくなつた農耕
 時代に入るや否や死の恐
 怖を知るようになったこと、
 「宗教」が出現したこと、
 そうなつてから生産性向
 上のための「科学」を創
 始して文化と定義される現
 在の「文化」に余剰の出現
 も依つたのだから。封鎖
 建設の王侯貴族の所封
 して、いた金蒔絵の絢爛豪
 華は、彼らが封ぜざる社会
 の生産活動がよほど活発
 になつていないこと。左
 にほかならない。まさ
 「文化」は過剰の「蕩尽」
 なのである。

サヴァラン菓子で有名
 なブリリア・サヴァランは
 名著『美味礼讃』の巻頭
 にこう書いてある。一巻、
 禽獣は食らい、人間は食
 べる。教養ある人間は食
 初め。食べ方を知らぬ、
 どんなものを食べるとい
 か言つてみよ。か、いい
 どんな人であるか、いい
 当ててみよ。と（「根
 根・戸部訳『岩波文庫』）
 食もまた「文化」である。
 ここまで、長々と「文
 化」について論じてきた
 のは他でもない。私たちが
 の住むこの山梨県の「文
 化」状況はどうなのだから
 うかと問いたかつたから
 である。

ある人は、人口当たり
 有り余るほど有る「文化
 会館（公民館）」「図書館
 （学習館）」「博物館（展
 示資料館）」「美術館」、
 「スポーツ施設」の豊か
 さ、他県から帰つてくる

と急に良くなる山梨の道
 路など文化を張る。梨の象
 れぞと胸を張る。口さがない
 徴だ。また一方、口さがない
 人は、山梨は「文化不毛
 県」だ。と反論する。図書館
 書の数が多し。図書館が
 とは言わな。図書館は「文
 館」でやっつて。公民館は、
 ショーマンばかり。公民館は、
 老人クラブの詩吟発表会
 と御詠歌の練習会以外に
 は。ドラゴンやゲートポ
 ンといえな。これと手
 ツンといえな。これと手
 だけといえな。これと手
 しい。両者の言い分を足して
 2で割ると、箱物と道がこ
 の県で蕩尽で、あつて、こ
 のを文化と混同して、こ
 れを文化と混同して、こ
 ので。これは、要するに、山
 だ。この文化は、蕩尽のユ
 梨の「文化」は、蕩尽のユ
 言う「文化」は、蕩尽のユ
 始的「文化」は、蕩尽のユ
 民が「文化」は、蕩尽のユ
 りの「文化」は、蕩尽のユ
 工の「文化」は、蕩尽のユ
 し、きと。いふ。レ、ベル
 ある。と。いふ。レ、ベル
 ブリア・サヴァランの
 問、か。い。け。に。サ
 食、べ。て。い。け。に。サ
 答、え。ら。れ。る。も。サ
 間、と。し。の。の。サ
 他、人。に。し。の。の。サ
 0、回。目。の。見。せ。の。サ
 じ、う。だ。ろ。う。と。考。え。て。み。て。は。